

和歌山県内経済情勢報告

(平成30年4月判断)

1. 総論 「県内経済は、緩やかに回復しつつある」(判断を上方修正)

【総括判断】

項目	前回(30年1月判断)	今回(30年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

(注) 30年4月判断は、前回30年1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は持ち直しているほか、生産活動は回復し、雇用情勢も着実に改善しているなど全体として緩やかに回復しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回(30年1月判断)	今回(30年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	緩やかに回復している	回復している	
雇用情勢	改善している	着実に改善している	
設備投資	29年度は前年を下回る計画	29年度は前年を下回る見込み	
企業収益	29年度は増益見込み	29年度は増益見込み	

【先行き】

先行きについては、雇用環境等の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、県内経済は回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響について留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「持ち直している」

百貨店・スーパーは、水産物の不漁などの影響や他店との競合から食料品で弱い動きとなっているが、ドラッグストアは、冷凍食品など食料品を中心に好調となっている。また、身の回り品では、一部高額品が好調となるなど回復の動きがみられる。

コンビニエンスストアは、おにぎりや惣菜などを中心に好調となっている。

乗用車販売は、新型車投入効果の一巡などから弱い動きとなっている。

観光は、主要観光地で宿泊施設の稼働率が堅調に推移するなど好調な動きとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 2月まで寒さが続いたことから春物衣料品を中心に衣料品は弱い動きとなったが、化粧品や身の回り品ではブランドの一部高額品の売上が好調となっている。(小売業)
- 衣料品の売上は前年を上回り好調。ファストファッションのほか、比較的高額な衣料品の動きも良い。(小売業)
- 相場高もあり農産物の売上は伸びているが、不漁などの影響で水産物が低調。また、他店(ドラッグストアなど)との競合などにより客数が減少している。(小売業)
- 商品のリニューアル効果もあり、おにぎり、パン、惣菜などの売上が好調。(小売業)
- 冷凍食品を中心に食料品の売上が伸びているほか、プライベートブランドの化粧品も好調。(小売業)
- 主力車種の新车効果が一巡したこともあり販売台数は減少しているが、モデルチェンジ効果から高級車種の売上が伸びている。(自動車販売店)
- 国内旅行よりも、単価の高いハワイやアジアなどの海外旅行が伸びている。(旅行会社)
- 宿泊施設の稼働率は堅調に推移している。春休みは天候にも恵まれ宿泊客は増加している。(観光関係団体)

■ **生産活動** 「回復している」

主力である機械工業は、はん用機械で国内向け、生産用機械でアジアを中心に海外向けの需要が拡大するなど引き続き好調となっている。また、化学工業は、家庭用製品向けを中心に好調を維持していることや、鉄鋼業でも自動車や産業機械向けが好調であることから、生産活動は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 低価格から高価格帯製品までアジアを中心に海外需要が拡大。新工場建設や生産ラインに工作機械を増設するなど生産能力を拡大し、フル稼働で生産している。(機械工業)
- 自動車や電子部品向けなどの各種中間物の受注が好調で生産を増加している。(化学工業)
- 自動車関連や産業機械向けを中心に生産は堅調となっている。(鉄鋼業)

■ **雇用情勢** 「着実に改善している」

有効求人倍率は1倍を超え、高水準で推移している。また、新規求人数も増加傾向にあるなど、雇用情勢は着実に改善している。

(主なヒアリング結果)

- 開発職の人手が不足しており、企業内保育所を建設するなど社内環境整備を進め、女性を含めた人材確保に努めている。(機械工業)
- 競合店とアルバイト・パートの取り合いになっており、時給を相当上げてなんとか確保している。(小売業)
- 現場監督者の不足が慢性化しており、繁忙期等では受注機会の喪失につながっている。定年後の再雇用の場合でも、比較的高い給与水準とすることで再雇用者を確保している。(建設業)

■ **設備投資** 「29年度は前年を下回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1~3月期

法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)でみると、29年度通期の設備投資は、全産業で前年を下回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年を上回る見込みとなっているものの、非製造業では前年を下回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「29年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1~3月期

法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)でみると、29年度通期の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 「前年を上回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、貸家で前年を下回っているものの、持家、分譲で前年を上回っている。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、独立行政法人等で前年を上回っているものの、国、県、市町村で前年を下回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回る」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ **景況判断** 「「上昇」超となっている」

法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「上昇」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「上昇」超となっている。

規模別では、中小企業は「上昇」と「下降」が均衡しているものの、大企業、中堅企業は「上昇」超となっている。